

農大

だより

令和7（2025）年度版

令和8年1月1日発行

愛知県立農業大学校

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2

Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831

E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp

ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



養豚・養鶏専攻



CONTENTS

- 1 新年のごあいさつ
- 2 専攻紹介（養豚・養鶏）
- 3 特集
 - 意見発表会
 - 農大祭
- 4 専攻トピックス
- 5 トピックス
- 6 SNS投稿diary

愛知県立農業大学校
公式HP



Instagram



X (旧Twitter)





新年のごあいさつ



校長 島岡 勝隆

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素より本校の教育・運営に格別のご理解とご支援を賜り、卒業生、保護者の皆様をはじめ、農業関係機関・企業、地域の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

本県は木曽川・矢作川・豊川の豊かな水に恵まれ、全国第8位の農業産出額を誇る農業県です。その発展を支えてきたのは、まさに本校の卒業生であり、改めて深く感謝申し上げます。

昨年は農大祭において、大村知事に開会宣言をいただき、学生にとって大きな励みとなりました。私は校長就任以来、本校のキャンパスで学生一人ひとりが輝き、社会に出て『愛知県立農業大学校の卒業生です』と胸を張れる、素敵な学校にしたいという思いで取り組んでいます。

新しい年を迎える、2年生は卒業論文の取りまとめとオーストラリアへの海外派遣研修に臨み、1年生は卒業論文のテーマを決めて専攻実習に励みながら就職活動を本格化させます。新規就農を目指す長期社会人研修生も成果発表会・修了式を迎えます。学生や研修生が無事に巣立ちの時を迎えるのも、皆様のご理解とご協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

さらに本年は、新たな5年計画が始動します。学生や研修生にとって魅力ある学校づくりを進め、教育の充実を図り、就農・就職支援を一層強化してまいります。

職員一同、農業に夢を抱く学生や研修生の背中を力強く押せるよう全力で取り組みますので、引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



農学科後援会長
小野原 真由美

新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様には、日頃より農学科後援会の活動に格別の御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本後援会は、学生の寮生活における福利厚生の充実や教育環境の向上を目指し、農大祭等への参加を通じて学生の自己研鑽を促すことなどを目的としており、皆様からの会費をもとに、学生への支援事業等を行っています。

去る12月6日の農大祭では、保護者の方からたくさんの農産品を御提供いただき、また当日は、多くの方にバザーの御協力をいただきましたこと深くお礼申し上げます。

また、学生たちが企画・運営に主体的に関わり、農産物の販売や展示、地域の方々との交流を通じて、学びの成果を堂々と発表する姿が印象的でした。

引き続き、農業大学校と連携をとりながら、学生一人ひとりが充実した学校生活を過ごせるよう後援会活動を通じて、更なる協力・支援を図って参ります。

本年が学生、保護者の皆様にとって、希望に溢れる一年となりますよう心よりお祈り申し上げるとともに、農業大学校の益々の御発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

専攻紹介

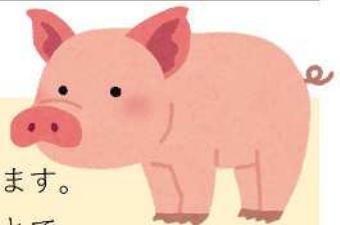
養豚・養鶏専攻

養 豚

養豚専攻では、4名（1年生3名、2年生1名）の学生が、豚の交配から分婉、育成、肥育、出荷に至るまで一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。

農大では、母豚を4つのグループに分け、それぞれを5週毎に分婉させることで、作業の効率化を図っています。また、学生が中心となって、餌の発注から繁殖計画、日々の作業予定を決めることで責任感を持って飼養管理ができるようにしています。

プロジェクト活動では、派遣実習や日々の管理の中で気づいた疑問点やアイデアを基に学生自らがテーマを決めて取り組んでいます。



分娩した子豚



肉豚の体重測定



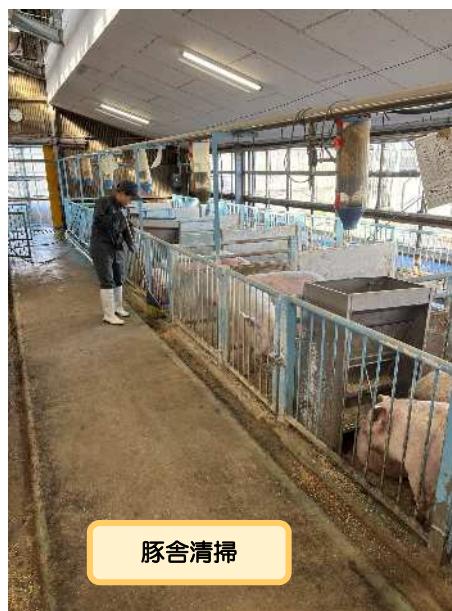
豚舎空間消毒



出荷します



豚房洗浄



豚舎清掃



石灰塗布



肥育豚



妊娠鑑定

養 鶏

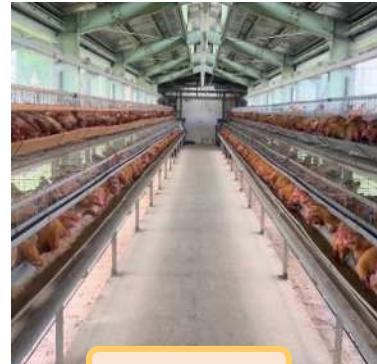
養鶏専攻は、9名（1年生5名、2年生3名）の学生が、愛知県の特産である「卵用名古屋コーチン」を主体に、白色レグホーン、ロードアイランドレッド、アローカナ、烏骨鶏、岡崎おうはんを合わせて約2,400羽飼養しています。育雛舎はウインドレス鶏舎、成鶏舎は開放鶏舎とウインドレス鶏舎のタイプの違う2鶏舎があり、育雛から成鶏までの飼養管理技術を一貫で学ぶことができます。また、鶏種や飼養形態による飼養管理方法の違いを学習できます。また、実習販売や農大祭等を通して、地元の方とコミュニケーションしながら売り方やブランド化など販売方法についても学んでいます。



育雛舎



ウインドレス舎



開放舎



ヒナの受け入れ



デピーク



農大祭



卵パック作成



実習販売

特集

意見発表会～わたしたちの主張！～



令和7年度意見発表会を、11月18日（火）、中央教育棟大講義室において開催しました。各専攻から1名ずつ選抜された1年生7名（酪農専攻生のみ発熱のため欠席）が、全学生及び職員の前で、農大における実践学習、我が家の農業経営や生活、地域や世界の農村環境、農家派遣実習を機会に考えたことなどについて意見を発表しました。

いずれの発表者も、発表内容はもちろんのこと、発表時間や発表態度等においても専攻職員から指導を受けて、練習を重ねていました。当日、緊張からその成果を十分發揮しきれなかった発表者もいましたが、農業に対する思いや後継者として解決したい課題、今後の農業のあるべき姿、将来設計等について熱意を持って語り、印象深い発表となりました。

校長を委員長とした4名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「人生100年時代可能性は無限大」を発表した切花専攻の太田創さん、優秀賞は「環境にも鶏にも優しい農業を目指して」を発表した養豚・養鶏専攻の加藤ちえさんと「地域のキャベツリーダーになるために」を発表した施設野菜専攻の佐藤颯海さんがそれぞれ獲得し、校長から賞状並びに副賞（後援会支援）を授与されました。

最優秀賞の太田さんは、和歌山県立農大で開催される「東海・近畿ブロック農業大学校意見発表会」（1月15～16日開催）に本校代表として参加し、さらにその先の全国大会（2月17～19日開催）への出場も目指します。



切花専攻 太田 創さん

人生 100 年時代 可能性は無限大

私の祖父は切花農家で、祖父から花農家の楽しさを教わりました。私は祖父の跡を立場上継ぐことができないのですが、就農したい気持ちは変わらなかったので、自分なりに調べてみると「経営継承」という方法があることを知りました。メリット、デメリットはありますが、画期的な方法だと思いました。

派遣実習で、お世話になった農家さんから今後就農するにあたっての心構えとして、就農に固執するのではなく、他の仕事で経験を積んでから農業を始める考え方を学ぶことができました。

いつか祖父や農家さんのような信念のある花農家になることが私の目標です。人生 100 年時代。10 年先、20 年先でも自分は何にでもなれるし、目標を見失わなければ、すべての経験が自分の将来につながると信じています。

最優秀賞



養豚・養鶏専攻 加藤 ちえさん

環境にも鶏にも優しい農業を目指して

「鶏の放牧」、これを耕作放棄地で実施できないだろうか？

地方に発生しがちな耕作放棄地や休耕地を利用して鶏を放牧することにより、草刈や農薬散布の軽減、農作業の省力化、自然環境の維持が可能になると考えます。

まだ、養鶏の技術・知識・経験が不足しており、農地の管理も学ぶ必要があります。将来、地域の環境維持や農家の方々に貢献するために、授業や実習を通じて、一層学んでいきたいと思います。

優秀賞



施設野菜専攻 佐藤 颯海さん

地域のキャベツリーダーとなるために

私の祖父母や叔父は田原市のキャベツ農家で、キャベツ部会に所属している。経営者になったらキャベツ栽培だけでは夏場の収穫がない期間があるため、メロンを経営に取り入れて、キャベツ・メロン農家として経営を安定させて、地域で最も反収がとれる農家になりたい。

また、後継者不足に対する取組として、先輩農家がすでに所有している農業機械をまだ所有していない若手農家や新規就農者と共同利用することをキャベツ部会に提案して新規就農者が農業を始めやすいような体制を作りたい。

こうしてキャベツ部会を引っ張っていけるような存在になり、地域のキャベツリーダーと呼ばれるようになりたい。

優秀賞



作物専攻 左右田 倫子さん

農家人口の減少について

農家人口の減少は、農業における最重要課題である。重労働や不安定な収入というイメージから若者の足が遠のき、高齢化と後継者不足が深刻化している。著者は実習や父との会話を通じ、若手農家の希少さを痛感しました。

このまま減少が続けば、食料自給率の低下による食の不安定化や、耕作放棄地の増大による環境悪化を招く恐れがあると考えました。解決には、給付金等の支援拡充や指導体制の整備に加え、若者視点でのSNS発信も有効であると思います。著者は農業大学校での学びを糧に、将来は自ら地域を支える農家となり、次世代へ農業の魅力を繋いでいきたいです。



果樹専攻 井上 真梨子さん

家庭で果樹を育てる楽しみは、庭がなくても実現できる時代に

近年、ガーデニングブームの影響で手軽に植物を育てる人が増えており、果樹栽培も家庭で手軽に育てるニーズがあると考える。しかし、植える場所に制限がある点や、栽培技術が必要なことが課題である。そこで、農業高校で学んだ鉢植えの技術と、農業大学校で学んだ果樹栽培の技術を生かして、どこの家庭でも鉢やプランターで手軽に育てられるようにするサービスを始めたい。このサービスを実現するには、①省スペースで栽培可能など、②早く果実が収穫できること、③気軽に始めてもらえることが重要である。これらを実現するために矮性台木や根域制限技術を利用し、省スペースで早く実をつける樹をつくりたい。また、栽培サポートアプリを利用し、利用者が成長できる仕組みも作りたい。これらのこととを実現するために、果樹栽培の知識・技術を身につける他、販売や経営管理について学んでいきたい。



露地野菜専攻 黒田 吏暉さん

気楽な農業

私は過度な期待が嫌いだ。期待されることはうれしいが、応えることができないのでやる気が失せる。現在この農大に通っているのも中学の時に家庭菜園をやっていて、これなら得意だし仕事にできると考えたからだ。でも農業関係に進路を決めたとき、周りから過度の期待を受け、大きなプレッシャーになった。

私は今でも農業の半分も知らないが、今は小さなことから問題に取り組めると知っている。農業ってもっと「割と気楽に目指せるではないか」と思う。皆さんも一緒に、気楽な農業をやってみませんか。



鉢物・緑花木専攻 佐宗 伸乃助さん

農業の未来への展望～志望者を増やすためには～

農業における大きな問題の一つは、就農者の高齢化と若者の担い手不足である。そのため、若者の就農者を増やす必要があると感じる。

若者の農業志望者を増やすために私が考えた方法は①地元の小・中学校が授業の一環として農業を取り入れて実際に植物を栽培・管理を体験してもらうこと、②様々な人に農業の魅力を伝えるために、農業で活躍する若手農家や農業高校生などが農業をしている様子をSNS等で積極的に発信することである。

私は農業の魅力を多くの人に伝えるためにSNSを利用して様々な人に農業の魅力を発信するとともに、実習助手という職業に就き、農業の魅力ややりがいを高校生に伝えることで、今後の農業を支える人材を増やして今後の農業の発展のために日々努力していきたい。



審査講評

各専攻の代表者から将来の夢や日頃の想いを聴く、大変有意義な発表会となりました。

最優秀賞の太田さん(切花専攻)は、就農する方法の一つに「事業承継」という方法があることを自ら調べ、農業以外で多くの経験を積んでからでも就農できることや、花農家になる夢を強く語ったことが高く評価されました。

優秀賞の加藤さん(養豚・養鶏専攻)は、耕作放棄地で鶏の放牧ができないだろうかと考えるに至ったことが物語のように語られ、話すテクニックもとても素晴らしいことが高く評価されました。

同じく優秀賞の佐藤さん(施設野菜専攻)は、キャベツ農家の祖父母の手伝いから、将来、キャベツ農家になり、経営を安定させるためにメロンを取り入れた経営を行い、地域のリーダーになりたいとまっすぐな気持ちを話したことが高く評価されました。

惜しくも、賞に入らなかった発表も、それぞれ自身の経験を通じて感じたこと、農業がおかれれた状況や環境を踏まえた、個性豊かで前向きな意見でした。発表された学生には、本校学生・職員の前で発表したことに自信を持っていただき、さらなる活躍を期待したいと思います。

そして、本校学生全員が自分の意見、考えを持って、それを相手の心に届けることを意識して、学校生活をより豊かにして欲しいと思います。

校長 島岡 勝隆

特 集

「農大祭2025」開催！

概 要



午前8時30分の受付開始とともに、お目当てのブースや整理券を求めて来場される方がたくさんお見えになり、多くのブースで早くから長い行列ができました。また、今回初めて来賓として来校いただいた愛知県知事の開会宣言後、販売が開始され、盛況の中、約2,800名の方が来場されました。

12月6日（土）午前9時から午後1まで「ぶちまけろ 自分の心に秘めたモノ」をテーマに「農大祭2025」を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、岡崎のアメダスの正午の気温が9.9°Cと風もなく穏やかな日となりました。



農大専攻直売ブース

学生が丹精込めて育てた農畜産物の直売ブースは毎年大変好評です。体育館では切花専攻のキクやバラ、鉢物・緑花木専攻のシクラメンやポインセチア等で埋め尽くされ、たくさんの方々が目的の花を買い求めていました。

テントブースでは、ハクサイやキャベツ、トマト、ナス、ナシなどの野菜や果物、加工品を始め、養豚・養鶏専攻の名古屋コーチンの鶏卵、作物専攻の米等を買い求める多くの姿が見られ、両手に抱えきれないほどの多くの農産物を持った来場者であふれていました。



農大専攻食品バザーブース

食品バザーでは、農大で獲れた農作物を使用した、五平餅や豚汁、牛串、肉巻きおにぎり、プリンなどたくさんの美味しいメニューが並び、来場者のお腹を満たしていました。



後援会提供ブース

後援会の提供品ブースでは、学生の保護者から提供いただいた野菜や米などを、隣のブースでは、協賛団体提供の名古屋コーチンの卵を使ったお菓子やうずら卵、牛乳、豚肉、黄桃プリン、リンゴ、大葉などを後援会の皆様の協力を得て販売を行い、早々に完売しました。



協賛団体・企業等の出店ブース

協賛団体・企業等の出店ブースでは、計11団体の出展をいただき、お茶や蒲郡みかん、はちみつ、珈琲などの販売、農業機械の展示販売や昔の発動機の実演をしていただきました。

さらに農大と連携協定を結んでいる岡崎市からは鶏卵（岡崎おうはん）などの商品の販売を行うとともに、みあい特別支援学校からは生徒の作品を展示しました。



専攻紹介パネル展示・フォトスポット

専攻展示室では、各専攻案内や学生の研究発表の成果をパネル展示するとともに、写真部の活動成果の展示も行いました。

また、中央教育棟の正面玄関に、色とりどりの花や野菜などのオブジェで飾り付けたフォトスポットでは、写真を撮る人で賑わいがありました。



茶道部による農大茶席

例年好評をいただいている茶道部による農大茶席では、たくさんの方が本格的な茶道を体験し、お茶と和菓子を堪能しつつ、全国有数の生産量を誇る愛知の抹茶と伝統文化である茶道への興味を持っていただけました。

また、お茶請けの和菓子は、昨年も好評だった農大産のシャインマスカットを使った大福で、大変好評でした。



農大キャンパスツアー

農大キャンパスツアーは今回、卒業生向けのツアーを加え、計3回実施し、合わせて119名の参加がありました。

普段は見ていただけない圃場や牛舎、トラクター等を見学して、農業や農大への理解を深めていただき、卒業生には懐かしさを感じていただきました。



今年も、来場者の皆さんの笑顔があふれる農大祭となりました。

また、すべてやり終えた学生たちの充実した表情がとても印象的でした。

来賓、協賛・出展団体、保護者、来場者等、皆様の多大な御協力により大盛況のうちに終わることが出来ました。ありがとうございました。



専 攻 トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

○専攻別学生数

(注)カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切 花	作 物	果 樹	露地野菜	施設野菜	酪 農	養豚・養鶏	計
1年	7(0)	9(2)	6(1)	15(4)	15(3)	13(2)	16(11)	8(3)	89(26)
2年	6(0)	8(2)	8(2)	13(3)	13(4)	15(2)	9(4)	4(4)	76(21)
計	13(0)	17(4)	14(3)	28(7)	28(7)	28(4)	25(15)	12(7)	165(47)



農大祭での花の販売、大盛況でした！

鉢物・緑花木

鉢物・緑花木専攻は今年も農大祭において、体育館全体を使った大規模な実習販売を切花専攻と合同で行いました。学生が主体となって1か月前からレイアウトや人員配置、スケジュール決めなど、開催に向けた入念な準備を行いました。その結果、今年もたくさんの来場者にお買い求めいただき、大盛況となりました。来年の販売は、現在の1年生が中心となって盛り上げていきますので、ぜひ来年もお越しください！



農大祭では新作の商品開発に取り組みました

農大祭では、実習で栽培している切花を花束にして販売しました。さらに今年度の取組として新商品開発を各班で考え、バラ班は切花染色液を独自に配合したオリジナルバラ、洋花班は染色したハボタン、キク班は大輪の染色ギクにラメをつけたものを数量限定で販売し、即完売となりました。これらは学生が日頃の実習で考えたアイデアです。学生は充実した様子で農大祭を楽しんでいました。





露地野菜

県外学習でAOIパークとJAとぴあ浜松玉葱部会を視察

11月25、26日に露地野菜専攻及び施設野菜専攻は県外学習で静岡県の一般財団法人アグリオーパンイノベーション機構(AOI-PARC)とJAとぴあ浜松玉葱部会を視察しました。

AOI-PARCでは葉面積計測装置や重量センサーを用いた最先端のイチゴ栽培技術等を、JAとぴあ浜松玉葱部会では日本一早い新タマネギ産地の栽培技術を学びました。

学生は、技術開発の現場や近隣県の栽培技術を目の当たりにして、いい刺激を受けたようでした。



施設野菜

キュウリの選果場と先進農家を視察しました！

校外学習で西尾市にあるキュウリの選果場とキュウリ農家を訪問しました！

キュウリの選果場では機械による自動化が進んでおり、選果や箱詰め等がまるで工場のような規模感でした。

新鮮なキュウリを消費者に届けるためにカメラ選別機能等を搭載した選果機によって効率的にスピーディーに選果されていました。

キュウリ農家では栽培方法や管理のポイントに加えて、農大とは違う誘引方法や収穫方法を教えていただき大変勉強になりました。

農大でのキュウリ栽培に取り入れていきたいです！



作物

農大祭に向けて五平餅つくりを頑張りました

12月6日に行われた農大祭の食品バザーで今年も五平餅を出品しました。昨年度卒業した学生が作った味噌を使った味噌だれと今年収穫したお米を使って五平餅を作りました。五平餅を作る前に前日から下準備を頑張り、500個を超える五平餅を全て売り切れることができました。来年度もうまく五平餅ができるように先輩たちが後輩に指導もしていて、とても頼りになりました。





今年は美味しい洋梨を提供できました！

果樹専攻では、毎年農大祭で西洋ナシを販売しています。西洋ナシを食べ頃にするには追熟が必要で、これまで農大祭の2週間前に保冷庫から出して常温保存し、追熟作業を行ってきました。しかし、6割以上の果実が腐敗してしまい、売り上げに繋げることができませんでした。そこで、今年は追熟剤「熟れごろ」を活用し、1週間前からの常温保存で追熟させたところ、腐敗率は1割に留まった上、食味も良好になり、自信を持って販売できるものになりました。品種によっては柔らかすぎたものもあったため、来年は収穫時期の見直し等を行い、より品質の安定した良い果実を提供できるように努めています♪



お手製のバンカーサイロでソルガムサイレージ作りに挑戦

11月号で紹介した大きく育ったソルガムを収穫して、サイレージに加工しました。サイレージは、作物を空気に触れないように密閉して発酵させ、漬物のようにして長期保存ができるようにする技術です。今回はブルーシートやパレットを使ったお手製のバンカーサイロでソルガムのサイレージ作りに挑戦しました。



空気を抜くためにみんなで踏みましたが、ふかふかのソルガムの上でバランスを取るのは難しく大変でした。過去の先輩が作ったサイロは、空気が入ってカビが生えてしまったので、今回は丁寧に作って良い餌にしたいです。



養豚農家と養鶏農家の直売所を見学しました

畜産課程は、校外学習で知多にある養豚農家と養鶏農家が自農場の豚肉や卵を販売している直売所を見学に行きました。

養豚農家の直売所は、豚肉だけでなく、ハムやソーセージの加工品、惣菜などを販売し、直売所のテラスで食べることもできます。田んぼの中に建つおしゃれで目を引く建物でした。

養鶏農家の直売所も卵のみならず、プリンやケーキなど様々な卵を使った加工品が並び、華やかでした。また、パン屋やレストランも併設し、販売だけでなく食事もできる施設となっていました。

学生たちは、自分たちが生産した肉や卵をお客さんに直接届けることができて評価が聞けることの意義を理解し、生産者のモチベーション向上にも大きくつながることを理解しました。



トピックス

一般一次入学試験を行いました

12月9日（火）、一般一次入学試験（小論文、数学Ⅰ、面接）を行いました。各受験生は、面接試験で農業に対する夢や希望を堂々と答えてくれましたので、今後の農業の発展に期待が膨らみました。合格発表は12月18日（木）に行い20名が合格し、先に実施した推薦入試と合わせて合格者は81名となりました。

一般二次試験は、令和8年2月12日（木）に行います。募集期間は令和8年1月9日（金）から1月26日（月）、募集する専攻は、「鉢物・緑花木専攻」、「切花専攻」、「養豚・養鶏」です。

※ 詳しくは、本校ホームページをご覧ください。



卒業生を訪問しました

11月13日（木）、本校を昨年卒業し、静岡大学に3年次編入学した田中快くんを訪問しました。

本校の施設野菜専攻でトマトやナスのハウス栽培に興味を持ち、アカデミックな研究も体験してみたいと思ったのが編入学のきっかけだそうです。

農大生は他の4年制の大学生とは異なり、現場で現在の農業の問題を体験しているので、いろいろな課題に対して想像できることが大きな利点で、興味を持っていることに対するモチベーションが大きいことも研究成果につながりやすいと考えているとのことでした。

困っていることとしては、編入の際に本校で取得した単位の変換があるとはいえ、他の大学生にくらべ多くの講義を受ける必要があること、3年次編入なのでサークル等参加しにくく友達を作りにくいことの2点を挙げていました。

また、自分の将来像として、農大で学んだ実務的な内容と大学で学んだ理論的な内容を生かして、研究職に就けるといいかなと思っているとのことでした。

後輩に対して、まずは農大での広大なほ場と親密な友達と一緒に農大でしかできない生活を楽しむ、その中でさらに学びたいことが見つかったら何を勉強・研究したいかを明確にして編入試験の準備をしていくのがよいとメッセージがありました。



「農業応援 TUBE」の取材を受けました！

11月27日(木)、「農業応援 TUBE」というYouTubeチャンネルで配信する動画素材を撮影するため、チャンネルを運営する日産化学(株)の取材を受けました。

午前中はMCの「ふたば」が学生と一緒に露地野菜専攻ではタマネギの肥料散布や定植を、作物専攻では農薬散布を行いました。

午後からの「ふたば」と6名の学生との座談会では、それぞれの学生が、農業に対する想いや将来の夢を大いに語ってくれました。

来月には「農業応援 TUBE」で農大の紹介動画がアップされる予定です。ぜひご覧ください。



公式チャンネルキャラクター

日産化学(株)提供



JICA研修生の訪問を受けました

12月2日(火)、JICA(独立行政法人国際協力機構)主催の研修の一環として、17か国から参加した研修生18名が農業大学校を訪問しました。今回のテーマは「職業訓練の運営・管理と質的強化」です。

当日は、教育部の概要やカリキュラム、企画研修部の研修内容について説明した後、校内施設を見学しました。国を代表して来日された研修生は皆、非常に熱心で、カリキュラムの内容や予算、校内の



施設に関する矢継ぎ早の質問で、和やかな雰囲気の中、担当者が対応に追われました。

今回の訪問を通じて、本校の取組が各国の職業訓練に活かされることを期待しています。

第3回進路セミナーを開催しました

12月12日(金)に1年生を対象とした第3回進路セミナーを開催しました。2年生からの就職活動等事例紹介と農業法人代表者による講演の2部構成で実施しました。

第1部では「私の就職活動の取組」と題して、自営就農・雇用就農・就職予定の2年生8人から、自らの取り組みや体験談を紹介してもらい、あらかじめ用意していた1年生からの質問に答えてもらう形式で進めました。2年生からは「就農の場合は中型や大型特殊の免許が必要になる」「会社見学会・インターンシップでは、そこで働く多くの人に話を聞くと良い」「このような就職相談会がきっかけになった」など貴重なアドバイスがありました。

第2部は(有)鍋八農産の代表取締役、八木輝治さんを講師に迎えました。鍋八農産は弥富市を中心に海部郡近郊で水田の作業受託を主とする農業法人で、米、小麦、飼料用トウモロコシの生産のほか、米の加工製造販売も行っています。本校の農家派遣実習の受け入れや、卒業生の雇用就農先でもあります。八木さんは本校卒業生で、学生時代や若い頃に農業に対して感じていたことなども交えて、新入社員に求められる基本的な資質・能力について話されたほか、期待する人物像として「挑戦心」「柔軟性」「地域貢献」の3つを挙げられました。

1部、2部を通して、受講した1年生にとって大変有意義なセミナーとなりました。



緑の学園研修を実施しました

地域農業の魅力などを学ぶ機会として、愛知県内の農業関係高校生を対象に「緑の学園研修」を実施しています。12月17日(水)には安城農林高等学校の生徒を本校に招いて農大を紹介しました。各専攻での説明は、安城農林を卒業して活躍している学生が行いました。生徒にとっては先輩になりますので、一生懸命に話を聞いてくれました。

興味関心も高まった様子で農業後継者育成に貢献できたと思います。



県民公開講座を開催しました

12月16日（火）「家庭で栽培する果樹剪定の基本」と題して50名の県民を対象とした県民公開講座を開催しました。

講師として学識経験者の都築壽男氏をお招きし、講義と剪定の模範実技を行いました。

講義では、適切な果実の摘果のやり方や病害虫防除のポイント等について、模



範実技では、カキのほ場に移動して、実際の剪定を目にしながら学びました。

参加者からは、多くの質問が出て、真剣さや熱意を感じられました。研修後に実施したアンケートではほぼ全員から参考になったと高い評価をいただきました。

出前講座（畜産）を実施しました

12月10日（水）に安城農林高等学校で「農大出前講座」を実施しました。同校の動物科学科2年生40名を対象に「愛知の畜産」について、①産出額と全国における順位、②愛知県で畜産業が発展した理由、③飼養頭羽数の推移、④県内の最先端の農場紹介といった話をしました。

どの生徒もメモを取りながら、非常に熱心に授業を受けていました。

生徒達が将来の進路を選択する際に少しでも参考になるよう「愛知の畜産」の将来像と一緒に予想したかったのですが、時間が足りなかったのが残念です。

授業後、数人の生徒が寄ってきて「○○先輩は元気にやっていますか？」「将来、動物の診療にかかる仕事がしたいのですが、どうしたら良いですか？」等、親しく話しかけられ、学校の活気あふれる空気を感じたい1コマでした。



～おいしく体験！ 安全・安心 あいちの畜産～



終業式を行いました

12月19日（金）に終業式を行いました。

島岡校長からは、今学期を振り返り、農大祭での学生の活躍に対してお礼の言葉がありました。

1年生については、農家派遣実習での経験をもとに、今後の進路選択につなげてほしいと話がありました。

2年生については、卒業論文をしっかり取り組むことで、学びの集大成を示して卒業してほしいとの話がありました。

新年は1月6日（火）から始まりますが、全員が元気な姿で会えるのを楽しみにしています。



SNS投稿 diary

農大公式アカウント: Instagram・X(Twitter)
アカウント名「aichinoudai」

通番 (投稿日) 内容

105 (11月20日) 露地野菜の校外学習



106 (11月21日) 小型車両系建設機械研修



107 (11月21日) 農大祭実行委員会



108 (11月25日) 11/26 農産物実習販売



109 (11月26日) 就農説明会のご案内



110 (11月27日) 「寄せ植え」はいかがですか？



111 (11月27日) 農大祭で軽音楽部が演奏します



112 (11月28日) JAとぴあ浜松を視察



113 (12月2日) 12/3 農産物実習販売



114 (12月3日) 農大祭に来てね！



115 (12月3日) バラが綺麗に咲きました

116 (12月3日) 切花の新作を販売します

117 (12月3日) ピンポンマムが咲きました



117

118 (12月4日) 花壇苗・苗木を販売します



118

119 (12月4日) アンスリウムのポット上げ



119

120 (12月4日) 今年はラン祭り?



120

121 (12月4日) 五平餅を販売します



121

122 (12月4日) 農大祭スペシャル企画



123 (12月5日) 「ホマレ」が生まれました



123

124 (12月5日) 烏骨鶏の卵も販売します



124

125 (12月5日) たくさんのお花を販売します



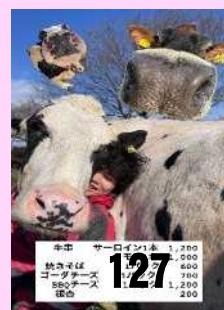
125

126 (12月5日) トマトイっぱい販売します



126

127 (12月5日) 牛串を販売します



127

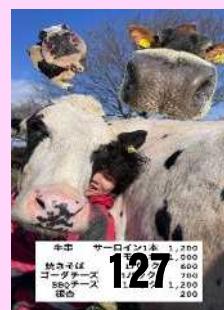
128 (12月6日) 農大祭 2025 盛大に開催



128

129 (12月9日) キュウリ選果場を視察

130 (12月9日) 12/10 農産物実習販売



127

131 (12月10日) デントコーンサイレージの開封



132 (12月16日) 12/17 農産物実習販売



131

133 (12月19日) 終業式



133



129

Follow Me !!

